

## 西柴小学校 幼保小連携事業について

# 連携推進事業の実際 幼稚園保育園との連携について

子どもたちの健やかな成長をめざして

めざしていること

子どもたちの願いや思いが実現し、幼稚園・保育園での豊かな経験を小学校生活で円滑に生かし、学習や望ましい生活につなげること。

小学校に入学する前に、園児・児童、また保育者・指導者が交流したり情報交換したりすることで、子どもたちが安心して学校生活を送ろうとする気持ちをもてること。

互いの園・学校で行う行事や活動・学習内容を共通理解することでさらにより内容を検討・改善すること。

## 西柴小学校 幼保小連携事業年間計画

(4月 入学式～8月 他学年と交流しながら学校に慣れていく時期)

- 9月** 運動会の**1年生**の取り組みなど(練習や演技)を園児に見せる。  
**1年生**が遊具などを紹介し、一緒に遊ぶ。  
運動会当日園児参加 (地域の人とともにすわりの演技を行う)  
景品は**1年生**児童の手作りのワッペン、折り紙など  
景品を渡すのは**5・6年生**児童(委員会活動の仕事)
- 11月** **5年生**との給食交流(次年度に縦割活動の1・6年の関係になるので5年と交流)  
簡単なプレゼントを渡す。昇降口まで出迎えたり見送ったりする。
- 1月** **1年生**との交流  
授業体験・遊びや生活体験(生活科の学習に沿って児童が計画)
- 4月** 入学式(**2年生**が**1年生**に学校の様子を紙芝居で伝えたり歌を歌ったりする。  
呼びかけなどをして歓迎する。)  
その後、**2年生**が学校探検やあさがおの種のプレゼントなどをして関わる。

## 今年度の西柴小学校の取り組み

- 3月～4月 **保育者・指導者の交流**(主に入学児童についての情報交換)
- 8月 **西柴保育園へ保育参観**(小学校1年生担任・児童指導担当者) **感染症防止のため中止**
- 9月 **運動会** **園児の参加は感染症防止のため中止**
- 11月 **給食交流** **園児の参加は感染症防止のため中止**  
**幼保小教育交流** 金沢第3ブロック (25日(木)実施 天使幼稚園にて)
- 12月 **園児・児童の公園交流** (12月8日(水)雨天のため延期、9日(木)、13日(月)実施)
- 1月 **園児・児童の公園交流** **感染症防止のため中止**
- 2月 **園児・児童の学校での交流**
- 3月 **保育者・指導者の交流**  
**保育園・幼稚園に「学校紹介の本」を送る**

# 幼児・児童の交流活動

## 12月の公園交流の様子から

本年度は感染症予防対策のため、年度の前半の活動は中止とした。状況が落ち着いた秋から、交流を計画し、実施した。運動会や給食に関する交流は行おうのが難しかったので、換気ができて密にならない交流を行った。それは保育園と学校の近くにある公園を利用し、幼児と児童と一緒に遊ぶ**公園交流**である。公園交流のよさは、**それぞれの施設での準備が必要ないことや、幼児・児童が自然な形で出会える場であること、のびのびと活動できること、などである。またそのような理由から、繰り返し交流を行えるよさがある。コロナ禍においては換気の心配のないことや密にならない活動を考えられる利点もある。**人数の関係で、1年生1クラス(29名)と保育園児年長クラス(12名)の交流とし、小学校3クラス分、3日間の日程をとった。1クラスは雨天のため延期(1月延期分はコロナで中止、改めて3月に交流予定)となったが、2クラスは交流することができた。

交流は午前中9:50~10:20ころ行った。場所は西柴保育園の隣にある西柴第一公園。遊具のある公園とボール遊びのできるグラウンド型の公園とがあり、広く、様々な活動ができる場所である。

まず互いに挨拶をし、簡単な自己紹介をして遊んだ。**遊びの内容は小学校児童がクラスごとに話し合をして考えた。ドンじゃんけんと鬼ごっこを計画した。幼児と児童と共のびのびと遊ぶことができた。**

## 交流の様子



ドンじゃんけんの様子。簡単で誰でも取り組みやすいものを選んだ。**子どもにとって何度も繰り返し遊べる楽しさや安心感がある。**



じゃんけんをするときにタイミングを合わせる必要があり、**相手と息を合わせて遊ぶ。タイミングがずれたときはやり直してもう一度じゃんけんをするルール。やり直しも上手にできる。**



広いグラウンドでのびのびと鬼ごっこ。小学生は赤白帽子、園児は黄・緑帽子で鬼と逃げの人を示すことで**わかりやすく遊ぶことができる。初めて会った相手とも、共に体を動かして遊ぶことで気持ち近くになっていくことが感じられる。**



## 教職員の連携

11月25日(木)天使幼稚園にて、2年ぶりの**幼保小教育交流 金沢第3ブロック協議会**が行われた。**テーマを「新型コロナウイルス感染症拡大防止対策下で気づいた課題について」とし、園や小学校での課題や工夫について話し合いを行った。**

3グループに分かれ、**①制約の中での工夫②新たな発見③今後の取り組み**の3点について話し合いをした。主に話題になったことは衛生面や食事についての課題、活動の縮小やそれに伴う工夫したり短縮したりしながらも内容を充実させた行事や活動について、環境整備・保護者への対応など、そして、変化に伴う**子ども達の気持ちのあり様や成長についても**話し合い、共有することができた。

久しぶりの保育者・教職員の会合ということで、大きな価値を感じられた。それは、コロナ禍の中での学校での不安や模索している現場の様子や内容を共有できたことである。また、外部の目から小学校というものを見てもらい共感してもらえたこと、そして園と学校をつないでいこうとする保育者の方々の熱い想いを感じることができた。実際の内容を保育者の皆さんと顔を合わせ伝えあうことで、教職員としても、今後の幼保小連携もスムーズに行えるという安心感を得られた。入学児童の情報共有と共に、子ども達の成長を温かく支える地域の保育・教育基盤の中での連携の大切さを改めて感じさせられた。課題は、会合の機会をどのように設けるか。今後、オンラインでの会合などが期待できる。

## 考察

## 成果・交流の意味するもの

幼児と児童の交流を体験することによって、小学校の児童は**今の自分と以前の自分を比べて振り返ったりすることにより、自己肯定感が高まり、相手意識から生まれる考えの広がりや深まりを期待することができる。**今回の公園交流の遊びについても教師が提案するのではなく、子ども達にどんな遊びがいいのか、事前に話し合いをした。「**園児さんがわかる遊びがいい**」「**幼稚園や保育園でやったことのある遊びなら知っているはず**」「**ルールが簡単なほうがいい**」というように**相手を思いやって話し合う姿**が見られた。また公園で遊ぶときは、園児と児童の数の差異はあったものの、「**一緒に遊ぼう**」とする**気持ち**が見られ、「ドンじゃんけん」では、一年生と一年生が固まらないように、優しく園児さんを間に入れようと促し、よりよい活動になるように自ら働きかける姿も見られた。

また、今年度は行えなかったが、**5、6年生との交流**(運動会の賞品渡しや誘導、給食交流など)も、小学生児童にとって意味があるものと考えられる。これまでも「**とどくように下駄箱は低い場所にする**」「**やさしくメダルをかけてあげよう**」しゃがんで話をする、手を引いて連れていく、自分から声をかける、などの行動が見られた。**高学年の子ども達の自己の成長の実感や、他者や立場の違う相手に対しての思いやり、ふさわしい態度を考えて行動すること、そのための活動や工夫を楽しみ喜べること、地域や社会に目を向けていくことやキャリア教育の点からも**交流の意味があると考えられる。

## 課題・今後の取り組みにむけて

今後、この公園交流の繰り返しや、直接幼児と児童とが出会うほかの交流をしていきたい。しかし現状は難しいので、できることを継続して模索していく。

本年度は1年生が「学校紹介の本」を作り、幼稚園・保育園に送る計画をしている。直接話したり紹介したりすることはできなくても、自発的な関わり合いができるような支援をしていきたい。例えば「学校紹介の本」の内容をこれから子ども達と話し合うが、内容をどのようにするか、だれがどの仕事をするか、園児さんに何が知りたいかこちらから問うお手紙を書く、など、自発的な活動ができるように十分話し合い、考えさせたい。コロナ禍であっても活動が充実することを望む。

高学年や運動会などの大きな行事にかかわる交流については、まだまだ子ども達と共に考え活動する段階に至らないため保留となっているが、いずれかの形で実現していきたい。例えば指導者は校内の縦割り活動の延長線上に幼児との活動や交流を考え、想像することはできる。また教科指導の中で生活科・総合的な学習の時間などで地域や近隣の幼稚園・保育園との交流を取り入れていくなど可能である。それらをどう実現するか子ども達と共に考えていくことが、交流する大切な意味の一つではないか。

幼児・児童の交流

どのように実現するか子ども達と  
共に考えていくこと

保育者・教職員の交流